

# 接尾辞ゲの非断定的用法

言語学・応用言語学研究室 4年 原菜々子

## 1. 問題提起

接尾辞ゲに関する先行研究（中村, 2000; ケキゼ, 2002）では、ゲには2つの用法（以下、ゲ1、ゲ2とする）があるとされている。

- (1) ゲ1：視覚でとらえられる対象の雰囲気を表す機能を持つ。
  - a. 子どもたちが積み木で楽しげに遊ぶ。
  - b. 彼女は何か言いたげな顔をしていた。
  - c. 彼女は私を見て優しげに笑った。
  - d. あの黒い服の人は怪しげな感じがする。
  
- (2) ゲ2：婉曲・やわらげ・比喻などの言葉によって説明され得る表現であり、対象を直接的でない言葉で描写することで、その性格や様子、属性をやわらかく表すものである。
  - a. どこか怪しげな英語をしゃべる人がいた。
  - b. 涼しげな美人が歩いている。
  - c. ご飯の他にはみそ汁と漬物しか並んでいない寂しげな食卓であった。[中村 2000:76,(22)]

分類する際の判断基準は表のとおりである。

用法	ソウとの置き換え	完全に確認されている	Aゲに/なB = BがA
ゲ1		×	
ゲ2	×		×

本論文では以上の分類にはあてはまらないゲの用法が存在することを指摘した。

- (3)
  - a. いかにも弱々しげな秋の陽を受け、海の水は意外なほど綺麗だった。[中村 2000:78,(32)]
  - b. 自分で撮った顔写真を加工して、きれいげな感じにした。
  - c. (写りの良くない女優の写真を見て)  
もっと美しげなものを選べばいいのに。
  - d. 後姿だけなら美人げだね。

(3)はゲ1、ゲ2の条件に当てはまらない。これらは「前接する語のもつ雰囲気を表す」というより、「完全ではないが、前接する語に近いことを表す」という意味を持つものではないか。本論文ではこれをゲ3とし、考察した。

## 2. 考察

ゲ3は、「完全ではないが、前接する語に近いことを表す」という意味を持つ。これは、ソウとの置き換えが不自然であり、前接する語の様子を完全に確認・知覚した場合のものである。また、「Aゲに/なB = BがA」が成立する

また、「良さげ」も、ゲ3の「確認はしているが完全ではない」面を持つ表現として考えたほうが良い場合も多くあるのではないかと考える。

- (4)
- a. この前描いた絵の評判が良さげで嬉しい。
  - b. この技、名前はかっこ良さげなのにださいね。
  - c. 12万円のプランより10万のほうがお得で良さげですね。

## 3. 結論

接尾辞ゲは、3つの判断基準により3つに分類できる。それぞれ「視覚でとらえられる対象の雰囲気を表す」「婉曲的に修飾する」「前接する語の状態が100%ではないが、その状態に近いことを強調する」という機能を持つ。

用法	ソウとの置き換え	完全に確認されている	Aゲに/なB = BがA
ゲ1		×	
ゲ2	×		×
ゲ3	×		

### 参考文献

ケキゼ, タチアナ (2002) 「「げ」の意味分析」『日本語文法』2(1):3-21

中村亘 (2000) 「接尾辞「げ」の意味・用法 「そう」との事態把握の違いを通じて」

『早稲田大学大学院研究紀要, 第3分冊, 日本文学演劇美術史日本語文化』73-82. 東京: 早稲田大学大学院文学研究科.